

震災復興へ連続シンポ

日本学術会議、来月から

日本学術会議は、東日本大震災の復興に向けた連続シンポジウムを、12月からほぼ月に1回のペースで開催する。国土の安全や産業基盤などにかかわる24学会が、これまでの反省も含めて今後の学術研究のあり方を議論する。

第1回のテーマは「今後考えべきハザード(地震動、

津波等)と規模は何か」で、12月6日に開催。第2回は「大災害の発生を前提として国土政策をどう見直すか」で、来年1月18日の開催。各分野の専門家による基調講演とパネル討論が行われる。会場はいずれも東京都港区の日本学術会議講堂で、時間は午後2時から5時半まで。

2月以降は、「減災社会をどう実現するか」「首都直下地震、東海地震等の巨大地震と津波に、今日どう備えるか」などのテーマが予定されている。

参加希望者は、希望回と所属、氏名を書いてsympon@m@gmail.comへ申し込む。詳細は同会議のホームページ(<http://www.scj.go.jp/ja/event/index.html>)で。問い合わせは同会議事務局(☎03・3403・1056)へ。